

NPO U-30 インタビュー

高知県の30歳以下の
NPOスタッフへの
インタビューです。

土佐市青年団 団長 森岡 千晴さん

●何年生まれですか？

1991年です。

●青年団活動にかかわるきっかけは？

大学時代の同級生に誘われて、向き合えば
向き合うほどある意味逃げられず…(笑)。

●あなたの役割や活動は何ですか？

- ・場づくりのきっかけをつくること
- ・先頭をきって飛び込んでいくこと

●活動していて楽しいことは？

- ・地域の中で仲間と何かをやり遂げたとき
(美味しいカンパイ)
- ・役割と出番がある夏祭りなど

●活動していて大変なことは？

自分自身がどうしたいのかあいまいなま
ま、周りを巻き込んでしまったと気づいた
とき😓

●これまでの人生で、岐路や転機などありましたか？

「青年団」に出会ったこと。ありのままの自
分を受けとめてもらい、その中で感じたこ
とを発信する喜びが今につながります。

●特技はありますか？

- ・合いの手
- ・高知振り込まないーの音頭(※)
※高知県警制作の特殊詐欺被害防止の音頭

●土佐市の中で好きな場所はどこですか？

- ・波介川にかかる大辻橋
(自転車で駆け抜けているとき)
- ・歩道橋のたもとのファミリーマート

●これからやってみたいことは何ですか？

- ・出張夜学会(土佐市中に繰り出す！)
- ・キッチンカープロジェクト(職を通じた気
軽に集える居場所づくり事業)
- ・婚活イベント&パトロールランニング
そして
- ・新しくできる土佐市複合文化施設で「春
一番こんさあと」!!

●好きな言葉は？

オモシロキコトモナキヨヲオモシロク
(おもしろきこともなき世をおもしろく)
高杉晋作の辞世の歌

てをつなGo

発行・編集 高知県ボランティア・NPOセンター

〒780-8567 高知市朝倉1375-1 高知県立くし交流プラザ4F 高知県社会福祉協議会内
Tel 088-850-9100 Fax 088-844-3832 E-mail kymc@pipikochi.or.jp

てをつなGo

2019.Spring vol.120

CONTENTS

Awesome NPO
土佐市の注目NPO

NPO法人トサシカケNITARI

復活! 土佐市青年団!

NPO U-30
土佐市在住 森岡 千晴さん

復活 土佐市青年団!!

たくさんの
皆さんの協力で
開催できました!地域のみなさま
を痛感!

春一番こんさあと

3月27日、バーカリーカフェ イワゴーにて開催。
土佐市青年団復活ののろしをあげました!

すずかけ講座

5月、高岡高等学校が実施している
キャリア教育授業の一環として、
土佐市の歴史や産業について学ぶ
「すずかけ講座」を土佐市青年団
が担当。「土佐市のミライ」に
ついてお話ししました

土佐市どろんこ大会

6月17日に土佐市岩戸で開催されたどろんこ
大会に、土佐市青年団も参戦!
予選リーグ敗退するも、にぎやかに大健闘!泥から足が
動かない...

すごい達成感!

みんな一つ一つの物を
作るって、楽しい!

大綱まつり

8月18日、高岡高校生・土佐署のメンバーといっしょに参加。
綱引きはもちろん、文化協会さんと土佐音頭を踊ったり、
出店ブースのお手伝いをしました。楽しかった
で〜す!これが、土佐市青年団の
モットー!!!!

土佐市青年団は、土佐市内での青年活動を促進し、各事業を通じて青年同士が交流し、各青年が主体的に土佐市の未来に寄与する地域活性の担い手として行動できるようにサポート及びネットワークづくりを行う社会教育団体。1985年を最後に休止状態となっていました。

2018年1月、土佐市在住の2人の青年が、それぞれの想いから土佐市青年団の復活に向けて動き出しました。それがシンガーソングライター森岡さんと大学生(今春卒業)の楠瀬さんです。

復活までの道のりは平坦ではありませんでしたが、地域の先輩から頂いた言葉「まずは動く!」を胸に動き続け、2018年3月27日に土佐市青年団復活宣言も兼ねた「春一番こんさあと」を開催しました。

復活後も動きながら徐々に土佐市の様々な団体を巻き込み、土佐警察署の若手職員が30名入るなど、団員数は県内最大の45名にまで成長しました。これからも土佐市の未来のため、若い力をどんどん発揮していきます!

ドラゴン夜学会

地元土佐市を知る、動き出すきっかけにするために、毎回テーマ
を決めて開催。2018年度は9回開催しました。
意見交換や講演、ゲームなどいろいろな企画を行っています。
もちろん、交流のための(?)飲み会もあり!2019年3月には、
青年団復活の立役
者楠瀬さんが青年
団を卒業。
春からは教員の道
を進むことに。団長の森岡さん
から卒業する楠
瀬さんに、歌と
エールが送られ
ました。

「ひと、まち、もの」から土佐市の未来を考える。

トサシカケNITARI (通称ニタリ) は平成30年3月に設立したNPO法人。
法人名のトサシカケは土佐市×仕掛け、NITARIはニタリクジラのニタリですが、
ニタリと笑っている感じもうかがえます。

土佐市の人口はおよそ27,000人。四国三大河川のひとつ仁淀川の西岸に位置していて、市としては高知県内で最も面積の小さい市です。高知県内において比較的都市部と言われる土佐市においても、過疎化・少子高齢化の影響による人口減少は一番の地域課題となっており、その影響は、一次産業の担い手不足等の産業の衰退、買い物人口が減ることによる商店街のシャッター街化等、問題は日々深刻化しています。

そんな状況の中で、「若い力で土佐市を面白おかしく盛り上げたい!」という想いを持った20~30代のメンバーを中心に設立されたのがニタリ。特徴的なのは、理事メンバー。貸船業・農家・陶芸家・デザイナー・造形作家・水産卸業・ジム経営者・地域おこし協力隊... 普通に考えると集まることのないような、多種多様な業種の数々! このバラエティに富んだメンバーが、「この集団なら色んなことに挑戦できそう!」という希望と野心を持って集まりました。



NPO法人 トサシカケNITARI

<https://ja-jp.facebook.com/nitari.tosashikake/>



土佐市民協働大学

トサシカケNITARIの活動方針



「ひと」に焦点をあてた活動に取り組みます。

市外、県外から新しい人材を呼び込む活動や、地域で意欲的な若者を応援する活動として、まちづくりに関わる研修や意見交換の場などを作り、地域の若者を人材育成する活動を行います。



「まち」に焦点をあてた活動に取り組みます。

現在、土佐市内における空き家、空き店舗は年々増加しており、住宅街、商店街ともに閑散とした状況に陥りつつあります。そうした建物の利活用を行い、地域住民や市外の人が立ち寄りたと思えるコミュニティの場を創造する活動を行います。



「もの」に焦点をあてた活動に取り組みます。

土佐市内における農林水産物、伝統工芸品等の特産品に焦点をあて、特産品のPRやイベント、また異業種の連携促進のための機会を創出する活動を実施することで衰退する産業の活性化に繋げる活動を行います。

この3つの活動を軸として、多種多様な人材でコミュニティ形成し、土佐市の将来のまちづくりを推し進めていくことを目的とした団体として、地域課題の解消と土佐市の発展に向けた様々な活動に取り組みます。

ミーティング



月1回のミーティングには理事だけでなく、会員やニタリの活動に関心のある人たちが集まり、これからの土佐市に想いを馳せ、楽しく議論を交わしています。ゆるやかに市民が繋がり、共感の連鎖が活動へとつながっていきます。



Photo:kazusa mariya

地域移住サポーター



県が推進する「地域移住サポーター」は、移住者・移住希望者の身近な相談役となるボランティア的存在。ニタリからはなんと15名が委嘱されていて、その数は県全体のサポーターのおよそ10%を占めます。

今後は土佐市への移住促進の活動も期待できます!



世代や立場を超えて地域で活躍する方を毎回講師に迎え、これからの土佐市の在り方を考えていく楽しい学びの場としてニタリが開設しています。

2月15日に開催された土佐市民協働大学では、ニタリの理事でピーマン農家の長瀬さんが「農

家一年生のここだけの話」をテーマに、就農までの道のりやハウス栽培のことなどについて講演。土佐市内外から15名ほどが集まり交流を深めました。

高岡日曜市



「土佐市を盛り上げよう!」企画の一環として、2018年10月28日に開催された高岡日曜市にも出店! 朝採れピーマンや地元産の干物などを販売しました。

ご紹介します!

メンバーに支えられながら事務局を務める田中さん。出身は大阪市です。高知県とは縁もゆかりもありませんが、2016年6月に田舎暮らしを考えながらドライブで訪れた高知県の海に一目惚れし、それから約3ヶ月で移住を完了させたという行動派。この3月までは土佐市の地域おこし協力隊としても活動していました。

このニタリで何がしたいかと言われるとまだ見えていませんが、今はメンバーたちが手を組みながら色んなことに挑戦するのを間近で見ながら、一緒に動いていきたいという想いです。



田中 愛彩さん